

町立小中学校の耐震診断結果一覧表

(平成22年4月現在)

学校名	建物の概要			耐震診断結果 二次診断に基づく 補強前のIs値	耐震化状況	
	区分	建築年度	構造 階数		耐震補強工事 実施年度	二次診断に基づく 補強後のIs値
大治小学校	管理棟	昭和36年～昭和53年	RC 3階	0.26	平成11年	0.73
	南棟	昭和40年～昭和46年	RC 3階	0.33	平成10年	0.72
	体育館	平成15年	RC 2階	新耐震基準による建築のため耐震性がある建物です		
大治南小学校	管理棟	昭和48年～昭和50年	RC 3階	0.56	平成10年	0.71
	南棟	昭和55年	RC 3階	0.66	平成19年	0.95
	体育館	昭和48年	RC 2階	0.16	平成19年	0.84
大治西小学校	管理棟	昭和52年～昭和57年	RC 4階	0.71	耐震診断の結果Is値0.7以上の ため補強は不要です	
	体育館	昭和52年	RC 2階	0.81	耐震診断の結果Is値0.7以上の ため補強は不要です	
大治中学校	管理棟	昭和45年～昭和52年 平成21年	RC 4階	0.57	平成21年度	0.71
	南棟	昭和55年	RC 3階	0.7	耐震診断の結果Is値0.7以上の ため補強は不要です	
	体育館	昭和46年	RC 2階	0.14	平成17年	0.73
	特別教室棟	昭和59年	RC 2階	新耐震基準による建築のため耐震性がある建物です		
	柔剣道場	昭和57年	RC 2階	新耐震基準による建築のため耐震性がある建物です		

耐震診断

耐震診断は、新耐震基準(昭和56年以前)施行以前の建物について、地震に対する安全性を構造力学上診断するものであり、診断の結果、構造耐震指針(Is値)が0.6未満の場合、「地震の振動および衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性がある」とされています。

二次診断

柱・壁・コンクリート強度・鉄筋量等から建物の強さと貼りを算定する診断方法です。一次診断(柱や壁の量から簡略的に評価する診断方法)より精密な判定方法であり、学校施設を耐震補強する場合に行う一般的な診断方法で、文部科学省が指導する0.7以上のIs値とは、この診断方法によるものです。

構造

RC・・・鉄筋コンクリート造のもの

Is値

地震に耐えられる能力としての建物の強さ、地震の力を受け流す能力としての建物の粘りの二つに、建物の形状・経年変化を考慮して、耐震診断基準による計算式により求められます。過去の地震記録の解析の結果、Is値0.6以上ある建物は、震度6強程度の大地震に対しても建物の倒壊や崩壊する危険性が低いと考えられていますが、文部科学省では学校施設については、地震時の児童生徒の安全性、また災害時の避難場所としての機能性を考慮して耐震性の割増を行い0.7以上確保することと指導しています。